

無着造、解深密經疏 (三)

西尾京雄譯註

一、緒言

本號所載を以て、本疏は完結するのであるが、茲に、一言述べねばならないことがある。それは本譯註に於て、五、虛妄分別論とする一項に就てである。

本疏は北京版に據れば、經疏部、第三十四函、第十三葉表七行を以て終り、明に、第十〔品〕完結せりと讀まれ、其より以後、第十三葉裏八行迄、本文の上よりは解深密經と關係なき論が説かれてゐる。その初頭は、虛妄分別を云何が遍知するやとの句によつて初められてゐるから、いま、假に虛妄分別論と名づけた。

この虛妄分別論は何に據つて造論せられたものであるか。その論の意趣並に無着の著との關係は如何、又、本疏と會合せられてゐる理由等を知ることが出来ないのを遺憾に思ふものである。解深密經解説は、此に就て一言も費してゐない。然し、この論目によつて漠然ながらもその論の意圖が知ることが出来るやうである。この虛妄分別論について、讀者に示教を俟つものである。

二、第八〔分別瑜伽〕品^①

一、第八〔品〕に於ては、六相によつて瑜伽道を説示し、〔即ち〕一遍知と不遍知^②、二自性、三加行の因、四至得、五

至得の方便、六失はざらしめんが爲に〔法〕假 (edag-s-pa, prajñapti) を決擇する〔等〕によつて説示するなり。

二、その中、止と觀によつて攝せられる〔道〕が自性なり。

一 法假安立 (chos elegs-pa nam-par-bslag-pa, dharmaprajñaptivyavasthāpana) を得る、二〔無上菩提の〕願を捨てざること、三四所緣事〔等〕は加行の因なり。^④

彌勒よ、法假安立とは、即ちといふ等は至得なり。^⑤

世尊よ、菩薩が〔身心の輕安を得ざる〕かぎりといふ等は至得⁽¹⁶⁾の方便なり。^⑥

遺餘は失はざらしめんが爲に假を決擇すと知るべきなり。そこで、失はざらしめんが爲に假を決擇することは、多種ありと知るべきなり。

三、一、無分別智に住する三摩地を失はざらしめんが爲にとは、世尊よ、奢摩他道と毗鉢舍那道と異ありと爲すや、異無しと爲すやといふ等なり。^⑧

二、無分別智覺 (nam-par-mi-rtog-pahi ces rtogs-pa) を失はざらしめんが爲にとは、世尊よ、〔無分別覺によりて〕觀る三摩地の所行の影像ありといふ等なり。^⑨

三、三相 (止相・觀相・捨相) を修習する時の無知によつて〔觀察を〕失はざらしめんが爲にとは、世尊よ、何に齊つて一向に毗鉢舍那を修するやといふ等なり。^⑩

四、唯少法のみによつて知足の觀察を〔失はざらしめんが爲に〕とは、世尊よ、毗鉢舍那に幾種有りやといふ等なり。^⑪

五、損滅の根の觀察を〔失はざらしめんが爲に〕とは、世尊よ、奢摩他と毗鉢舍那とが法に依ると爲すといふ等なり。^⑫

六、善を増長することを失はざらしめんが爲にとは、世尊よ、奢摩他と毗鉢舍那とが別法を縁ずと爲しといふ等なり。所縁に心を攝することによつてのみ善根を増長するが故なり⁽¹⁴⁾。

七、分別と散動との有對治を失はざらしめんが爲にとは、世尊よ、奢摩他・毗鉢舍那は云何が有尋有伺の三摩地となるやといふ等なり⁽¹⁵⁾。

八、修相の偏知を失はざらしめんが爲にとは、世尊よ、止相は云何といふ等なり⁽¹⁶⁾。

九、増上慢を觀することゝ「失はざらしめんが爲に」とは、世尊よ、菩薩は奢摩他と毗鉢舍那とを修し、法を知りといはるゝ等なり。増上慢を無からしめんが爲に法と義とを知る相を說示するが故なり⁽¹⁷⁾。

〔能依なる知義の自性と差別とは四種にして〕⁽¹⁸⁾ (一)所知の「一切の義を攝すると、(二)教説の一切の義を攝すると、(三)心を觀察する〔義〕を攝すると、(四)所依と能依、〔及び〕甚深と廣大との一切の義を攝するとなり。

〔その中〕、(一)所知の一切法を攝すとは、盡所有性(ji-shed yod-pa nīd, yāvatā) と如所有性(ji-lar bsin-du yod-pa nīd, yathāvatā)、所取と能取との〔義〕より説くものである。

所取の義は建立 (gnas, sthāna) と受用 (lois-spyod, bhoga) との義によつて開示するなり。

此等の能取等に於て、顛倒に先行するものは雜染〔義〕なり。無顛倒に先行するものは清淨〔義〕なり。

村界 (groñ mshams) と其の百等⁽¹⁹⁾と説くは、無量の世界を引發する因なり。

(二)教説の一切の義を攝すとは、一諦に依つて諸佛は法を説き給ふなり。かの「二諦の教説」に於て、雜染の過患 (skyon) を説き清淨の功德 (yon-tan) を説く〔が故〕なり。雜染と清淨との其等の法は、諸縁より生ずるものなりと

(11a) 雖も自在〔天〕等より生ずるものに非ざるなり。其等は又、〔三〕世に關するものにして、有爲の諸相によつて開示するなり。かくの如く、無常と病等〔の相〕によつて苦なり。而して聲聞乘に於ては苦等〔四諦を説き〕、大乘に於ては眞如等を徧知するなり。

其等が廣 (bsdud-ba, saṃgraha) と略 (dbye-ba, Vignāha) との二によつて説くものなり。

回答には、一向記等によつて回答するものなり。

(三)〔次に、心を觀察する一切の義を攝すとは、心の因を觀察すると、心の領納を觀察すると、心の了別を觀察すると、心の雜染と清淨とを觀察することにして、次第の如く、身と受と心と法との念住の義の一切を攝するものなり。〕⁽²⁰⁾ 第四に、一切の義を攝するについて、所依 (gnas) は文字 (shig-pbu) であり。能依 (bten-pa) は義なり。この二は甚深なる教と甚深なる義と知るべきなり。

界義の廣大とは、無量の故なり。

一〇、止のみによつて失はざらしめんが爲にとは、〔觀の〕智と見を徧求するが故なり。⁽²¹⁾

一一、微細現行によつて徧知を失はざらしめんが爲にとは、世尊よ、菩薩は奢摩他・毗鉢舍那を修し、何の作意により、何の相を、如何に除遣するやといふ等なり。⁽²²⁾

一二、空性に於て怖を觀察することを〔失はざらしめんが爲に〕とは、世尊よ、大乘に於てといふより總空性相なりといはるゝ等なり。⁽²³⁾

一三、止觀の修習に於て、自性と因と果と業と加行と轉との義に關して教誡を與へ失はざらしめんが爲にとは、世

尊よ、奢摩他・毗鉢舍那は幾種の三摩地を攝するやといふ等なり。⁽²⁴⁾

(11)

一四、修習に於て切實なる願求無き觀察を〔失はざらしめんが爲に〕とは、細相現行の〔初の〕四義と〔四〕念住と隨順することによつて知るべきなり。諸餘は十六空と隨順することによつて知るべきなり。散空 (dor-ba med-pa, an-avaṅkīra) は二語を攝すと相應し、相空に於ては二相なり。諸餘は一一と相應すと知るべきなり。

註

① 解深密經の第八品は解深密經解說 (Saṃdhiṃmūcāra śāstraṃ vyākhyāna P. Tg. Mdo-igrel. CXNV) に於ては一六二葉裏より二六四葉裏の間に解説する。

② 「解説」一六一葉裏に引用する。

③ 不遍知とは彌勒菩薩によつて問はるゝ幾多の疑問をいひ、遍知とは佛陀によつて答へらるゝものである。

④ 「解説」一六三葉表参照。

⑤ 右同、一七七葉表参照。

⑥ 右同、一八八葉表参照。

⑦ 右同、一九〇葉裏に引用、踏襲してゐる。

⑧ 右同、一九一葉裏参照。

⑨ 右同、一九二葉裏参照。

⑩ 右同、一九五葉表参照。

⑪ 右同、一九八葉表参照。

⑫ 右同、二〇〇葉裏参照。

⑬ 右同、二〇二葉表参照。

⑭ 右同、二〇六葉裏参照。

⑮修相、本文は *bsgom-pa la rgyu* とあるも「解説」一九一葉表には *bsgom-pa'i rgyu-msthan* とあり、「解説」に據る。

⑯「解説」二〇九葉表参照。

⑰右同、二一〇葉裏参照。

⑱右同、二一二葉裏に引用・踏襲されてゐる。

⑲本文は *de bryad* とするも「解説」二一四葉裏 *de brya* に據る。

⑳本文には、説き及んでゐないが、文脈上「解説」二二一葉表に據りて補譯した。

㉑「解説」二二三葉表参照。

㉒右同、二二五葉裏参照。

㉓右同、二三三葉表裏参照。

㉔右同、二三四葉裏参照。

三、第九〔地波羅密多〕品^①

一、第九〔品〕に於ては、波羅密圓滿について善巧にするに關して、問と答とを説くなり。諸波羅密は大乘によつて攝せらるゝが故なり。

二、(一)如何に圓滿する (*ji-lar yohs-su-rdsogs-pa*) とは、地を差別する () とによつて、〔覺圓滿 (*rtogs-pa yohs-su-rdsogs-pa*) の波羅密を圓滿することを説く〕、世尊よ、諸菩薩の十地あり。其等は即ちといふ等なり。

(二)布施波羅密等〔六及十波羅密圓滿を説くは〕、何等をか圓滿する (*gan-dag yohs-su-rdsogs-pa*) 〔にして、行圓滿 (*spyod-pa yohs-su-rdsogs-pa*) 波羅密差別を説くものなり、其は、世尊よ、諸菩薩の學事 (*bslab-pa'i gshi, cik'a-pada*) は幾種有りやといふ等なり。

三、(一)其⁽²⁾〔如何に圓滿すといふ六科は標と釋とに分れ、その釋は七段に細分せらるゝ〕中、一、果善巧⁽³⁾、二、所治分と能治〔分〕との善巧、三、名善巧にすべきに關して三種の間あり。

四、諸地の所對治分の差別善巧とは、慧解脱の所對治分と心解脱の所對治分として、〔其の教説は〕、世尊よ、此等〔の諸地〕に於て、愚癡 (kum-tu-rmois-pa, sammoḥa) は幾何あり、羸重の所對治分 (gnas-ran-len mi-mthun-pa'i phyogs, dausi-hulya-vipaksa) は幾何ありやといふ等なり⁽⁴⁾。

五、對治の差別善巧とは、地に入る善を攝するが故なり⁽⁷⁾。

六、自と他との身體 (rgyud)、異熟の所依善巧とは、世尊よ、何が故に〔諸〕有に於ける一切生の中、菩薩の生は殊勝なりやといふ等なり⁽⁸⁾。

七、意樂を圓滿にすべき方便善巧とは、世尊よ、何故に諸菩薩は廣大願を行ずるといふ等なり⁽⁹⁾。

(二)、『何等をか圓滿するは波羅密の差別、二十種にしてその中』

一、自己と衆生とを成熟せんが爲の方便善巧とは、學事は六等に於てなり⁽¹¹⁾。

二、所依及び能依善巧とは、『六波羅密は三學に攝せらるゝ中』、三學の最初(戒學)〔は所依なる〕に對して、後々は能依なるが故なり⁽¹²⁾。

三、盛榮⁽¹³⁾ (mion-par-mtho-ba, abhyudaya) と至善⁽¹⁴⁾ (nes-par-legs-pa, niḥcreyasa) との方便善巧とは、福德と智慧とは其等の二の因なるが故なり⁽¹⁵⁾。

四、正善學 (legs-par-cin-tu-blab-pa) 善巧とは、世尊よ、其等の六學處を菩薩は如何が修學すべきやといふ等なり⁽¹⁶⁾。

正善巧は〔五種⁽¹⁷⁾〕一、界隨増⁽¹⁸⁾ (khlams rtas-pa) 二、資糧を修集⁽¹⁹⁾ (tshogs yab-dag-par-igrub-pa) 三、乘に於て損減せず (theg-pa la yōs-su-mi-ñams-pa) 四、疑惑無く⁽²¹⁾ (som-ni med-pa) 五、住⁽²²⁾ (gnas-skab) 〔等〕に於て知るべきなり。

五、窮盡・攝盡 (nihar-thug-pa bsdun-ba) 善巧あり、〔其は〕世尊よ、何故に其等の學處を六數として施設するを知るやといふ等なり⁽²³⁾。

六、〔助伴⁽²⁴⁾ (gros-pa) 善巧とは、世尊よ、何故に餘の波羅密多を四種として施設するを知るやといふ等なり⁽²⁵⁾。

七、生起善巧とは、世尊よ、何故に其等の六波羅密多の次第を如何に知るやといふ等なり⁽²⁶⁾。〕

八、異類の差別 (tha-dad-pahi rab-tu-dbye-ba) 善巧とは、世尊よ、其等の波羅密多は幾種の差別ありやといふ等なり⁽²⁷⁾。

九、咸滿 (rdzogs-pa) 善巧とは、世尊よ、何故に其等の波羅密多を波羅密多と爲すやといふ等なり⁽²⁸⁾。

一〇、施設を攝する善巧とは、世尊よ、其等の五相の各々は何業ありやといふ等なり⁽²⁹⁾。

一一、功德の差別善巧とは、世尊よ、其等の波羅密多の廣大性は何なりやといふ等なり⁽³⁰⁾。

一二、不斷善巧とは、世尊よ、何故に菩薩は常に波羅密多の可愛の異熟果によつて盡くることなきやといふ等なり⁽³¹⁾。

一三、因性に住する方便善巧とは、世尊よ、何故に菩薩は諸波羅密多に於けるが如く波羅密多の可愛の異熟果に於て深信に住せざるやといふ等なり⁽³²⁾。

一四、所作成就善巧とは、世尊よ、其等の波羅密多は幾何の威徳 (so-sor-mthu, prabhāva) ありやといふ等なり⁽³³⁾。

一五、所攝受の成就する利益善巧とは、世尊よ、其等の波羅密多は何の因より生じ、何の果を具し、何の義利を有するやといふ等なり。果とは自と他との義利の爲なりと知るべきなり。⁽⁴¹⁾

一六、衆生饑益の障礙善巧とは、世尊よ、若しといふより、何故に世間に貧窮ありやといふ等なり。⁽⁴²⁾

一七、入方便を失はざる善巧とは、世尊よ、菩薩は一切法の無自性性を何等の波羅密多によつて取るやといふ等なり。⁽⁴³⁾

一八、減と増とに善巧とは、世尊よ、波羅密多と爲しといふ等なり。⁽⁴⁴⁾

一九、雑染の相續、隨執の觀察善巧とは、世尊よ、此等〔の諸地〕に煩惱の隨眠は幾種ありやといふ等なり。⁽⁴⁵⁾

二〇、出離して菩提に赴く (no-pari-hyūṇ-ṭa) 差別性 (bye-bṛaṣṣe) の分別善巧とは、世尊よ、世尊は聲聞乘あり、大乘あり、其はといふ等なり。

その中、義に於て聲の如く、唯分別のみにして、一類は増益を爲しとは、通計の相によつて色等なり。一類は損減を爲しとは、一切法は無自性なりといふ此によつて、一切法の相に於て損減するが故なり。⁽⁴⁶⁾

註 ①本品は、解深密經解説 CXXV. 26lp—CXXVI. 23a に於て解説する。

②以下の釋は「解説」一六七葉裏に引用・踏襲するものと相應する。

③果善巧は「解説」二六八葉裏より二七四葉表まで参照。

④同右二七四葉表より三〇五葉裏まで参照。

⑤同右三〇五葉裏より三一三葉表まで参照。

⑥同右三一三葉表より三一七葉裏まで参照。

- ⑦ 同右三一七葉裏より三二五葉裏まで参照。
- ⑧ 同右三二五葉裏より三二八葉表まで参照。
- ⑨ 同右三二八葉表より三三〇葉表まで参照。
- ⑩ 以下の釋は「解説」三三〇葉表に引用・踏襲するものと相應する。
- ⑪ 同右三三一葉表より三三九葉裏まで参照。
- ⑫ 同右三三九葉裏より三四〇葉表まで参照。
- ⑬ 盛榮とは、天上 (mtho-ris, swarṣa) なりと「解説」三四〇葉表参照。
- ⑭ 至善とは、涅槃なりと、「解説」三四〇葉表参照。
- ⑮ 「解説」三四〇葉表より三四一葉表まで参照。
- ⑯ 同右、三四一葉表より三五二葉裏まで参照。
- ⑰ 五種、「解説」三四一葉表参照。
- ⑱ 「解説」三四一葉裏参照。
- ⑲ 同右、三四三葉表参照。
- ⑳ 同右、三四九葉表参照。
- ㉑ 同右、三五〇葉表参照。
- ㉒ 同右、三五一葉表参照。
- ㉓ 同右、百廿六函一葉表より三葉表まで参照。
- ㉔ 六・七は無着疏には脱落してゐるので、「解説」三三〇葉裏に據りて補譯した。左にその本文を擧ぐ。
- /grogz la mkhas-pa ni /bcom-lan-ldas cñi slad-du pha-rol-tu-plyin-pa gshan-dag grañs bshir gclags-par rñg-par bgyi lags
shes-bya-ba la-sogs-palio/

/bbyun-ba mkhas-pa ni boom-ldan-ldas ciji slad-du pha-rol-tu-phyin-pa drug-po de-dag si go-rim ji-lar rig-par bgyi lags
shes-bya-ba la-sogs-pa/

②⑤「解説」三葉表より四葉裏まで参照。

②⑥ 同右、五葉表参照。

②⑦ 同右、五葉表より七葉表まで参照。

②⑧ 同右、七葉表より一四葉表まで参照。

②⑨ 同右、一四葉裏参照。

③⑩ 同右、一四葉裏より一六葉表まで参照。

③⑪ 同右、一六葉表より一六葉裏まで参照。

③⑫ 同右、一六葉裏より一七葉表まで参照。

③⑬ 同右、一七葉表参照。

③⑭ 同右、一七葉裏より一八葉表参照。

③⑮ 本文 dbul-po dag brdah lags とあるも「解説」一八葉表 dbul-po gñah lags とあるに據る。

③⑯「解説」一八葉表裏参照。

③⑰ 同右、一八葉裏より一九葉裏まで参照。

③⑱ 同右、一九葉裏より二〇葉裏まで参照。

③⑲ 同右、二〇葉裏より二七葉表まで参照。

④⑩ 同右、二七葉表裏参照。

一、第十〔品〕に於ては、如來身に於ける諸癡妄(cin-tu-mo-ṣṭa)の對治、「即ち」、一、無常分別の對治なる法身の教説と、二、虛妄分別の對治なる生起の教説とによつて説示するなり。

二、藏(sde-snod, piṅka)施設に於ける諸癡妄の對治に對して、その虛妄ならざる教説なり。本母(ma-mo, māṭṭka)の相は十一あり。其は五種の相となるなり。「即ち、世俗相と勝義相との」二は教説(yan-ta)の相、「菩提分法所縁相と行相と自性相との」三は分別(yon-tu-ṣṭe-pa)相、「彼果相と彼領受開示相との」二は果の相、「彼障礙法相と彼隨順法相との」二は其等の障礙(ṭse-ṣṭa)と利益(rjan-pde-ṣṭa)の相、「彼過患相と彼勝利相との」二はその過患と功德との相なり。

三、諸餘は行(yi-yo-ta)に於ける癡妄の對治にして、その一切の教説は如來生起の教説の理趣に於て知るべきなり。

第十〔品〕完結せり。

註

①本品は「解説」百廿六函二八葉表より二一七葉表の最後まで解説する。

②無着の疏は、第十品に於ては、和譯に於て見るが如く非常に簡單に解説せられ、前品に於けるが如く、「解説」の解釋の各項と對應せんが爲に「解説」二八葉表裏及び三二葉裏に據りて略科を擧げる。

如來成所作事品(三)一

- 一、如來因圓滿
- 二、如來果圓滿
- 三、如來作事圓滿(一〇)一

無着造、解深密經疏(三)

- 一、生起……三三葉裏より三六葉裏まで、
 二、身示……三六葉裏より三八葉裏まで、
 三、言音……三八葉裏より二〇八葉裏まで、
 四、心生……二〇八葉裏より二〇九葉裏まで、
 五、所行……二〇九葉裏より二一一葉裏まで、
 六、境界……二一一葉裏より二一四葉裏まで、
 七、正覺……二一一葉裏より二一四葉裏まで、
 八、法輪……二一一葉裏より二一四葉裏まで、
 九、涅槃……二一一葉裏より二一四葉裏まで、
 一〇、見聞……二一四葉裏より二一六葉裏まで、

③「解説」三八葉裏参照。

④本母の解釋は「解説」一五〇葉裏より二〇六葉裏に至る。こゝは、一五〇葉裏に引用・踏襲する。

五、虚妄分別論

一、虚妄分別(yab-dag-pa-ma-yin-pa kun-tu-rtog-pa)を云何が遍知すべきぞ。

二、一所依(gnas) 一、相(mtshan-nid) 三、方便、四、果、五、因、六、究竟成(mthag-thug-par bgyur-ba) 七、依止(rten) 八、差別(rab-tu-dbye-ba)〔等〕に於て遍知すべきなり。

三、その中、一、所依とは菩薩なり。二、相とは顛倒の因(Phyin-ci-log gi rgyu-nid)なり。三、方便とは聞・思・修より生ずる慧なり。四、果とは彼の斷なる無上正等菩提と衆生利益を得ることなり。五、因とは種性(ras)にして、

佛の興出を悦ぶこと、聞法、如理作意、隨順法を修習することなり。六、究竟成とは、眞如覺(*de-bshin-mid rtogs-pa*)にして、その覺が一切の虛妄を遍知するものなり。七、依止とは信解行地と初地と(乃至)佛地なり。

八、差別とは十七なり。〔即ち〕一、生(*hbyun-ba*)の差別、二、不生(*ma-byun-ba*)の差別、三、能取(*hdsin-pa*)の差別、四、所取(*gzun-ba*)の差別、五、外觀待(*phyi-tol-tu bltas-pa*)の差別、六、內觀待(*nan-du bltas-pa*)の差別、八、今生受用^①(*skyes-nas myoñ-bar-hgyur-ba*, *upadaya vedaniya*)の差別、九、他世受用^②(*lan-gran's gshan la rab-tu-myoñ-ba*, *apara paryāya vedaniyam*)の差別、一〇、無(*med-pa*)の差別、一一、有と無(*yod-pa dan med-pa*)の差別、一二、實(*yan-dag-pa*, *bhūta*)の差別、一三、實と不實(*yan-dag-pa dan yan-dag-pa-ma-yin-pa*)との差別、一四、眞實の等流(*yan-dag-pahi rgyu-mthun-pa*)の差別、一五、^③に如何指示(*ci-shes bstan-pa*)の差別、一六、過去と一七、現在等の差別なり。

四、虛妄分別は實に非ず

不虛妄は無分別性

分別せざるは無分別に非ず

一切を知りて説くべし。^④

といふ此の四〔句〕によつて覺知すべし。

聖なる解深密經疏、阿闍梨、無着造完結せり。^(14a)

大谷學報 第二十二卷 第三號

印度親教師 Jinamita, Surendrabodhi 大校修譯官 ye-ces-sde 等譯・閱・刊定。

註 ① 楠博士、翻譯名義集、第二三〇九番。

② 同右、第二三一〇番。

③ 同右、第七六一九番(ε.)

④ yañ-dag-min-rlog yañ-dag-min/

yañ-dag-min-min mi-rlog-ñid/

rlog-pa-na-yin mi-rlog-min/

thams-cad ces-par-bjod-par-bya/